

2023年11月16日

各位

会社名 K u d a n 株式会社  
代表者名 代表取締役 CEO 項 大雨  
(コード番号 4425 東証グロース)  
問合せ先 取締役 CFO 中山 紘平  
(TEL. 03-4405-1325)

## 2024年3月期 第2四半期決算説明に関する質疑応答内容の公開のお知らせ

当社は、2023年11月15日、投資家・アナリスト向け決算説明会を開催いたしました。投資家の皆様にタイムリーに情報を開示するべく、質疑応答内容を本リリースにテキストにて公開いたします。また、決算説明動画や決算説明スクリプト URL を以下に再掲しておりますので、あわせてご確認いただきますようお願い申し上げます。

### 【2024年3月期第2四半期 機関投資家・アナリスト向け決算説明会】

- 開催日時：2023年11月15日（水）
- 説明者：代表取締役 CEO 項 大雨  
取締役 CFO 中山 紘平  
取締役 COO ティエン ハオ

▼▼決算説明動画はこちらからご確認いただけます▼▼

<https://youtu.be/vulXrfvYkNs>

▼▼決算説明スクリプトはこちらからご確認いただけます▼▼

<https://finance.logmi.jp/378621>

▼▼決算説明資料はこちらからご確認いただけます▼▼

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS02977/70fa2263/200b/45b2/85ea/3a50a8171552/140120231113588829.pdf>

---

---

### 【質疑応答内容】

1. アルゴリズム、製品向けパッケージ、ソリューションをそれぞれ今後どのように伸ばしていく計画でしょうか

アルゴリズム、製品向けパッケージ、ソリューションと3つのご説明をしていますが、計画としては、あくまでもアルゴリズムを中長期での収益の柱として考えています。Kudanとしては3つ全体で成長しながらも、基本的にはアルゴリズム中心にどんどん収斂していくというふうに見込んでいます。

アルゴリズム以外に関しては、例えばソリューションはアルゴリズムの利用価値を高めるものとなりますが、それ自体の収益性としては案件ごとにばらつきがあり、収益としてはあくまでもアルゴリズムを補完するものとなります。

製品向けパッケージは時間軸が違って、数年単位の呼び水として捉えています。これはKudanの技術の使い方を市場に示すものになります。従って、我々としてはこれを使いながら周辺に他のビジネスが連動していくように事業を育てていこうと考えています。

## 2. デジタルツイン・空間 DX の世界需要の拡大により、今後の御社の事業へどのようなインパクトがありますか？

デジタルツイン・空間 DX の世界需要が大きく広がっているとご説明していますが、基本的に、これらの需要は、当社の売上成長に直接大きく貢献すると考えています。短期的にも、デジタルアセット基盤のソリューション事業の需要が、日本とヨーロッパでかなり増えてきています。

今からしっかり立ち上がって今期では数千万円規模の売上の見込みで、来期には本格的な事業の立ち上がり、数億円単位の売上を目指しています。中長期的には、デジタルアセット基盤の事業だけでも、数年で数十億円規模の大事業になるというポテンシャルを見えています。

## 3. Whale Dynamic 社への出資等もある中で、今後の資金計画について教えてください

ここまでご説明している通り事業が好調に進捗しているため、それに合わせて株主価値を最大化できるように、適切なタイミングでの資金調達に向けて検討を進めていきたいと考えています。

## 4. 現時点でどの程度の今期の製品化を見込んでいますか？

製品化の件数については、前期と比べてかなり重要度が下がってはいますが、前期同水準以上の件数を見込んでいます。事業フェーズが変わってきていますので、前期のようにどれぐらい製品化するかというよりも、製品化したものがどれぐらい売上に直結するかという点で、製品関連売上というものを KPI として今期は注視しています。

これに関しては、現時点で当初の予想を上回る進捗を見せていますので、事業としては、KPI ベースでは非常に順調に進んでいるものと考えています。

5. WD 社への出資額とライセンス売上見通しがほぼ同額水準になると思います。外観的には「ライセンス購入金額をファイナンスしている」と見られかねないものだと思いますが、このスキームにおける投資へのリターンをどのように考えていますか。

ライセンス購入金額をファイナンスしているわけではなく、出資自体の狙いとしては、説明資料にもありましたように、将来的な Whale Dynamic 社からのライセンスの拡大を後押しするというものになります。Whale Dynamic 社は、グローバルで見ても先進的な中国市場で磨いてきた実用的な実装力を持っていて、需要拡大のために、今後地域展開を大きく手がけていきます。

また、製品展開についても、いわゆる自動運転の本丸に当たるような、乗用車の自動運転のところに入っていきにあたって、そこに必要な開発・販売体制の強化を、我々の出資資金でもって後押しすることによって、Whale Dynamic 社が事業成長し、そしてそこから我々の製品の普及を後押しすることによって、我々のライセンス販売がさらに加速していく、そういったリターンを具体的には考えています。

この出資により協業を強く後押しできるように、今協業範囲の拡大を進めていまして、欧州や中東など中国以外の国への地域展開の拡大を我々も一緒になって協力していきますし、マッピングやロボットから乗用車に向けて、自動運転領域でも協業の領域を拡大していくというような動きも行いながら、さらに協業関係を築いて進めていく、このような狙いとなっています。

6. 下期には円安に伴う為替差益がどのようになるかを計算したいので、為替前提について教えて下さい。

為替差益の構造についてご説明致しますと、当社の海外子会社の通貨である US ドル、ポンド、ユーロが外貨高になると、為替差益がグループ内の債権債務から生じるという構造になっています。中でも、US ドルのインパクトが大きいので、特に US ドルの変動を見て頂ければ、ある程度為替差益の動きを見積もることができるものとなっています。

7. 採用動向について。欧州で新しい事業が増えているようですが採用は増えていますか。来年 3 月末の連結社員数イメージなどを教えてください。

足元の事業がかなり進捗している状況のため、製品化案件・ソリューション案件などにおいて必要な体制の強化というのはもちろん必要ですが、過去の増加ペースから大きく変わるものではなく、基本的に同じようなペースで考えています。具体的には 1 年で 1 桁増ぐらいの人数を想定しています。

例えば、このソリューション事業に関しては、我々のコア技術を使いつつ、ソリューションパートナーを活用して展開するビジネスモデルになるため、事業規模がかなり増えていったとしても、我々自身が大きく規模を拡大するものではないという点ご理解頂ければと思います。

---

※決算説明の内容に関するご質問につきましては、下記の問い合わせ先にて頂戴いたします。  
また、ご希望の会社様には、個別取材も承りますので、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

■会社概要

会 社 名：K u d a n株式会社

証券コード：4425

代 表 者：代表取締役 CEO 項 大雨

■お問い合わせ先は[こちら](#)